

明治三十二年 (1899年) 四月十三日

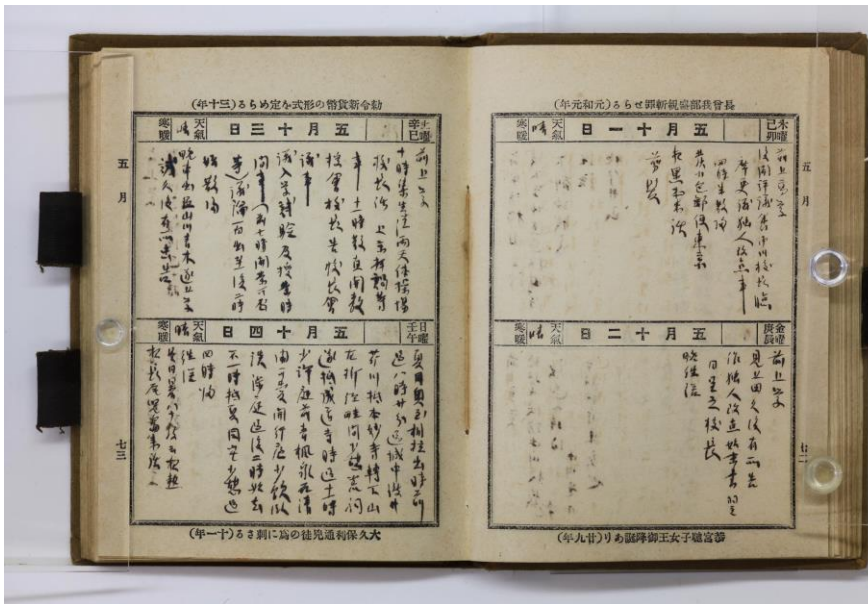
前十時、上高学、見桜井等、旧識者無不少  
 拝教頭、  
 過午、帰、  
 後、夏目来訪、夜、山川来訪、  
 雑話過夜半、

【意訳】

午前十時、高等学校に行く。桜井などと会う。かつての知り合いが少なくはない。教頭の職を受けた。昼過ぎに帰った。午後、夏目が訪ねて来て、夜には山川も訪ねて来た。雑談を交わして夜が過ぎた。

(注)

- ① 松本は、この四月から熊本の第五高等学校に赴任して、教頭となる。
- ② 桜井房記は次年度に校長となる人物。現校長は中川元。こうした人びとが、松本とともに漱石にロンドン留学を勧めたといわれる。
- ③ 夏目漱石と山川信次郎は同級生で、同じく五高の英語を担当する教授。両者とも一高時代の松本の哲学(論理学)の教え子にあたる。闇魔帳より判明する。



明治三十二年 (1899年) 五月十四日

夏目、奥、至、相拉出、時前  
 過八時廿分過、城中、渡井、  
 芥川、抵本妙寺、転下山、  
 左折、経畦間、少憩、荒祠  
 遂、抵成道寺、時過十一時  
 少許、庭前、青楓泉石清  
 閑可愛、開行庭、少飲臥  
 談、涉庭、過二時始至  
 不一時、抵夏目宅、少憩、過  
 四時帰、  
 往浴、  
 是日、暑八十度、至夜熱  
 夜、長尾、児島来、話、

【意訳】

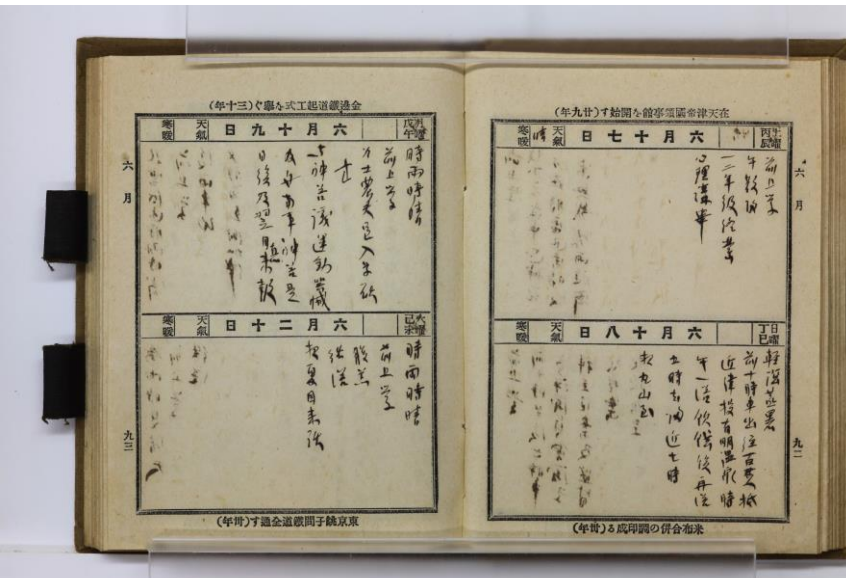
夏目と奥が来て、ともに出た。(現、熊本市内の本妙寺、自然山水の庭園で有名な成道寺を訪ね歩き)、しばらく夏目宅で休んで、四時を過ぎて帰った。

風呂に行った。

この日は暑く、華氏80度(摂氏27度)になった。夜も熱帯夜で、長尾と児島が来て話をした。

(注)

- ・ 成道寺は、夏目漱石も「若葉しててのひらほどの山の寺」の句を残している。

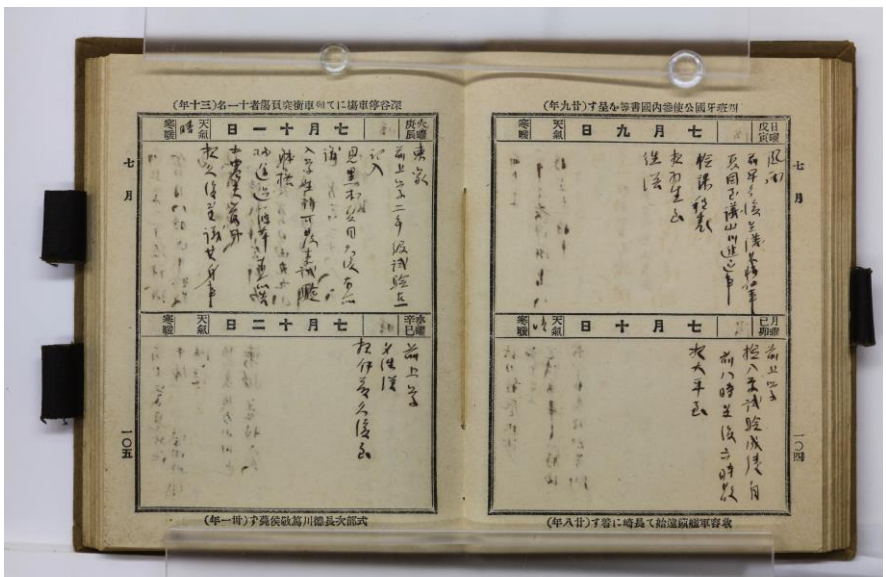


明治三十二年（1899年）六月二十日

時雨、時晴、  
前、上学、  
腹悪、  
往浴、  
夜、夏目来、話

【意識】

時々雨、時々晴れ。  
午前に学校へ行った。  
腹具合が悪い。  
風呂に行った。  
夜に夏目が来て話をした。

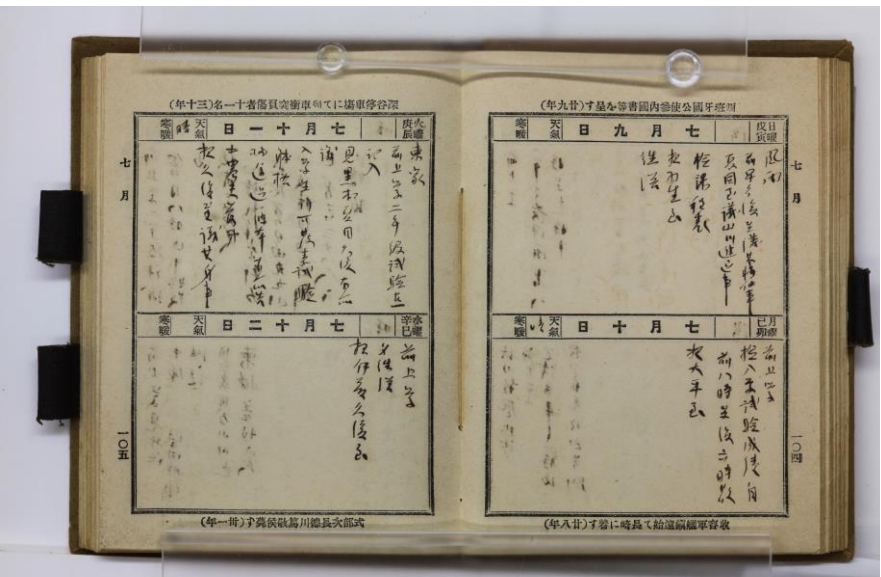


明治三十二年（1899年）七月九日

前早、久後至、議其転任事、  
夏目至、議山川進退事、  
検課程表、  
夜、羽生至、  
往浴、

【意識】

午前早く、久後が来て自分の転任の事について議論した。  
夏目が来て、山川の進退の事について議論した。  
（授業の）課程表を検査した。  
夜に羽生が来た。  
風呂に行った。



明治三十二年（1899年）七月十一日

前、上学、二年級試験点  
記入、

見、黒木、夏目、久後、有所

議、

入学生許可発表、試験、

躰格、

帰途過一時半、有所告

士農夫（四男）落第、

夜、久後至、議其身事、

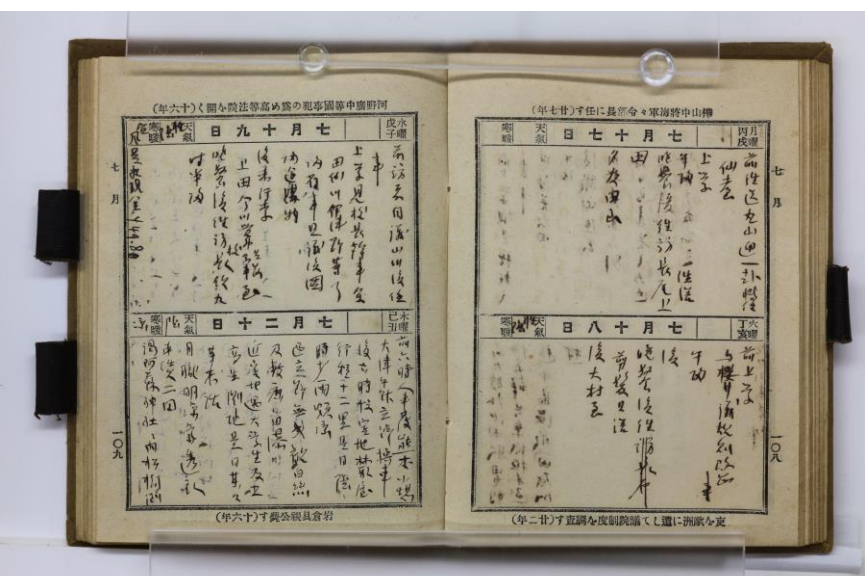
〔意識〕

午前中に学校に行った。二年級の試験の点数を  
つけた。

黒木、夏目、久後と会って、議論をした。

（後略）

※アンダーラインの文字は不確実。



明治三十二年（1899年）七月十九日

前、訪夏目、議、山川後任

事、

上学、見、校長、幹事、余

田、仙川、…（下略）

〔意識〕

午前中、夏目を訪ねて山川の後任の事を議論し  
た。（後略）